

第2回共生ビジョン懇談会での意見

※順不同

項目	意見	事務局回答	最終回答（5月28日）(案)
医療	「(2)圏域医療体制の充実」にネットワーク化の記載があるが、具体的事業がない。協会病院では、本年度電子カルテの整備を予定しており、「地域センター病院の充実」と「地域医療体制の充実」と同様に、「地域医療連携の推進」を加えて欲しい。	内容を整理させていただいて、行政として何ができるのか検討させていただきたい。	今後の検討課題としたい。
	医療の広域連携はこれから大切である。大雪インターネットとして旭川を中心に3月26日から動き出しているが、協会病院は電子カルテができてないため、画像しか対応していない。富良野地区では2次救急は、協会病院が担っており、電子カルテにより情報の共有が楽になり、病病連携、病診連携もスムーズになる。	意見	
	中富良野町立病院は、肺に関する非常に良いCTを持っている。地域の病院にも良い機械があるということを広域の皆さんにもお知らせし、ご利用いただきたい。	意見	
	協会病院は地域周産期母子医療センターに指定されている。「地域センター病院の充実」には、母子医療センターも含まれているのか。H25には、「地域母子医療センター機能の充実」の協定を結んでおり、その協定の文言をここに入れることはできないか。さらに充実させたい。	H25は小児科、婦人科の医療機器購入について5市町村で支援したが、H26以降は事業費としての予定はない。文言で加えられるかどうか検討したい。	
福祉	ファミリーサポート事業ができれば、子育てや就労環境も良くなると思われる。検討を願いたい。	上富良野町と中富良野町では、連携し現在実施している。子育て支援の法律も改正されており、富良野市としても検討中である。	富良野市として早急に実施すべく進めている。
	高齢化に伴い、認知症の問題が現れている。SOSネットワークや認知症サポーターの件も取り上げて欲しい。	検討し、ご意見として承りたい。	SOSネットワークは、5市町村から市町村ごとに細分化されてきている状況にある。認知症サポーターを含め、どのような市町村連携ができるのか検討したい。

	<p>母子通園センターについて、富良野市・南富良野町・占冠村の連携と、上富良野町・中富良野町の連携についてそれぞれ協定がある。</p> <p>ビジョンには、社会福祉法人やNPOに支援をされるとされているが、現実では民間施設よりも行政連携が優先されていると聞いている。働く場の確保や企業育成を考えるとビジョンに記載されているのは理解するが、協定自体が足枷になってしまっていることがあるように聞く。</p> <p>発達支援事業は全国どこの住民でも事業を使えることになっており、協定の中で、住民は自己の行政が設置する施設を使うという従来の発想では無く、民間があればそこを使うという方向で考えて行くべきと思う。</p>	意見	
教育	<p>富良野市でブックトラック事業を実施している。学校図書が予算の関係もあり進んでいない状況もあり、富良野市の事業だけでなく広域の事業として考えて欲しい。</p> <p>広域教育圏協議会の中でそういった提案を出すのも一つと考えるし、ビジョンの他の項目も網羅する具体策と思う。視聴覚ライブラリーと同じように学習・教育センターとしての図書館の役割分担のような文言が入れば次の図書館の方の流れに繋がると思う。</p>	<p>学校における図書環境の充実ということだと思う。広域教育圏協議会の中で図書館専門部会もあり、既存の部分の中でできないか、今後に向けてどのような形でできるのか。再度、市町村を通じて各教委へ確認をしながらどのような形で盛り込むのがいいのか、連動できるものはあるのか確認していきたい。</p>	<p>図書館専門部会の中で、ブックトラック事業の連携などについて検討したい。</p>
	<p>富良野スキー場は今シーズン第3リフトが老朽化のため運休されていたことがあった。沿線の学校も利用しており、また、修学旅行生も利用し、これらによって第1、第2リフトが混み合っていた。スキー場のことだが、行政としてスポーツ施設として捉えるのであれば、この会議の中でなにか取組や対策はないかと考える。</p>	<p>教育委員会とも協議をさせていただきたい。</p>	<p>13-14年シーズンは止まっており、次シーズンについては、未定と聞いている。</p> <p>民間のレジャー施設でもあり、行政として、安全性を確保し、運転再開を依頼したい。</p>
	<p>個々の市町村では体育施設の整備は難しいと思う。各々の市町村で特色のある施設を担当間で協議し、どこに何を整備し、それを全体で利用するようなことを関係市町村で協議して欲しい。</p>	意見	

産業振興	日豪 EPA の関係で畜産農家にかなりの影響がある。圏域の畜産農家が経営持続できるかどうか厳しい状況になっている。広域連合による串内を利用しているが、TMR や子牛の育成が畜産の喫緊の課題。酪農を守り地域の中で生き残っていくため、串内を利用した形の中で、行政でも支援して欲しい。	串内では利用頭数が 1,300 あったものが、最近では 1,000 を切っている。行政としても串内を利用して欲しいと思っている。どういった形でビジョンに反映できるか不明だが、検討したい。	広域連合は、地方自治体であり「広域計画」に基づき事務事業をしているので、共生ビジョン掲載は難しい。富良野広域連合は、5 市町村が構成となっており、串内牧場としては、常に市町村の畜産担当課と連携を図って運営しております。
	外国人観光客誘致宣伝について、富良野市しか事業記載がないが、この圏域はアジアだけでなく、冬季のスキー客を中心に誘致活動を行っている。「富良野市国際観光促進協議会」ではプロモーションや商談をしており、また、富良野美瑛広域観光推進協議会でも広域で海外へのプロモーション、スキーに特化した富良野大雪外国人スキー客誘致協議会では「北海道パウダーベルト」を売り出しており、広域全体で海外客を誘致している。アジア圏だけの対象ではなく、富良野市だけがやっているのではない。広域の各種団体の中でもやっているのだから、加えていただけたらいい。 滞在観光を進めることによって、ブランド観光圏認定要因にもなる。滞在しながら体験観光や食事もあるので、長期滞在による経済効果は多い。	外国人誘致に特化して支出（予算化）しているものを掲載しており、市町村によって観光協会への補助という形で支出をしているケースもある。（滞在観光に含まれているケースもある） 文言的にアジアだけではなくオーストラリア、ニュージーランドなど整理できるところは整理したい。	P33 の文言を修正 《外国人観光客の誘致・宣伝：事業内容》 <u>各種媒体を通じた情報発信やプロモーション・招聘事業を行うとともに、アジア圏の観光客に対応する職員を配置するなど、受け地整備を行う。</u> 《外国人観光客の誘致・宣伝：効果》 ビジット・ジャパンと連携し外国人の来訪を促進するとともに、特にアジア圏・ <u>オセアニア圏</u> からの誘客宣伝が図られる。
	各市町村で観光パンフをつくっているが、美瑛は入っていないが、できれば全体の街の案内パンフを作れば、経費節減にもなる。	富良野美瑛広域観光推進協議会の取り組みを含めて、担当と協議したい。良いような形で進めるのは、共通の考えと思う。	富良野美瑛広域観光推進協議会の中で、検討していきたい。
	上富良野町でも 6 次産業化をやっているところもある。各団体が力を合わせれば良いものができると思う。そういう促進をお願いしたい。	6 次産業化は、全体像が見えていないので、担当と協議させていただき、ビジョンに取り入れられることがあれば取り入れたい。	6 次産業化については、各市町村の取り組みと合わせ、富良野広域圏通年雇用促進協議会でも 6 次産業化のセミナーを開催しており、実践している事業所もあります。セミナーに参加する事業所では自主的にネットワークをつくっている状況もありますので、今後のネットワークのあり方については検討したい。

<p>その他</p>	<p>地域の自然環境が素晴らしいことを判ってもらえば住みやすくなると思う。環境が豊かなのは判っているが、何が豊かなのか、どんな形が豊かなのか、どういうものがあるのか。そして、アピールしていくものと、守らなければならないもの、そういうものを圏域内で調査をして、地域の宝物を見つけるなど、調べていく（どういう森がどのようにあって、どういう生物が棲んでいる等）。これらのことを根本に行ってから、低炭素社会に向けての考え方として、バイオマスや小水力発電をどうやって考えていくか、そういう基礎が必要ではないか。それらを調べることによって観光や産業の基になる。豊かはわかるが、どういう豊さなのか調べる事業を加えてはどうか。</p>	<p>具体的な取り組みとして全てを網羅している訳ではないが、北海道総合研究機構と富良野圏域連携推進会議として記載している。地域資源としてどういったものがあるのか、どのように使ったらいいのか、どういったエネルギー源が必要なのか、ニーズ調査しながら5年間掛け地域の中で環境を大切にしながら、どのように循環をさせて行くのか、これらを含めて調査研究をする協定を3月末に道総研と沿線5市町村で締結した。 地域の豊かさ資源活用の取り組みの中で、表現など個々の事業に反映できないか検討したい。</p>	<p>道総研と5市町村で「地域・産業特性に応じたエネルギーの分散型利用モデルの構築」について今年度から調査研究を行うこととしております。道総研・富良野圏域連携推進会議の中で、今後、検討したい。</p>
	<p>再生可能エネルギーの例を記載している。今後、道総研といろいろな可能性を調べていくと思うが、富良野だからできるもの、富良野だから活用できるものがたくさんある。今後、そういうものがたくさん出てくると思うので、もっと広く（例えば地中熱）いろんなものがあると思うので、狭めないように、自然の力を利用する形で大きく間口を空けておいて欲しい。</p>	<p>道総研では広い分野のエキスパートが参加することになっている。事業内容に盛り込めるよう、検討したい。</p>	<p>ビジョンの中では「太陽光、木質バイオマス、小水力発電などの再生可能エネルギー・・・」と記載しております。今後の調査研究の中で、いろいろな再生可能エネルギーが見出されることも考えられますので、エネルギーの種類を限定することは、考えておりません。（ビジョンの記載に汎用があるものと考えています。）</p>
<p>その他</p>	<p>住民相談で、認知症のため消費者被害により、生活が立ちいかないことが結構ある。相談を受けてからの対応について、手助けやカバーする体制が必要と思う。</p>	<p>内容を検討させていただき、意見として承りたい。</p>	<p>担当窓口である富良野消費者協会と各市町村担当者間で情報交換、情報提供を行うとともに、協会が各市町村に出向いて助言なども行っています。相談内容も複雑化しており、他にどのような連携ができるか、検討をしたい。</p>
	<p>協会病院は社会福祉法人であり、無料健康相談を義務化されている。健康相談の事業であれば、協会病院の事業を掲載しても構わない。</p>	<p>協会病院の事業なので、ビジョンの事業としては入れられないが、文言で整理できれば考えたい。</p>	<p>協会病院の事業のため共生ビジョンに記載はできないが、何らかの形で圏域内に周知をしていきたい。</p>

地域公共交通	バスに乗るのは、住民だけではない。足が無い観光客も利用しており、観光協会では夏期間の循環バスや冬期間の街までのシャトルバスを走らせている。バスということだと、観光客の2次交通というバスもある。自治体でないのでビジョンに載せられないと思うが、観光や住民の足としても不便さを考えると、バスなしでは観光もできない状況もある。	理解はするが、観光協会の事業なので、文言で整理できれば対応したい。	「シャトルバス」については、観光協会の事業について記載はできない。 観光客がバス利用することは理解いたしますが、共生ビジョンの性質を考え、圏域住民の生活を守る観点で記載をしたい。
その他	自治体等が軽トラで商品を買えない地域を回っていることを見た。地域交通も大切だが、日用品の購入など地域でお店が無くなっている状況もあり、そういうことも入れていくと共生に役に立つと思う。	買物難民対策については、この地域では生協などにより協力をいただいているが、行政としてできることはないかを含めて、意見として受け止めたい。	今後の検討課題としたい。
	他から見ると、この圏域は同一の行政区として見られているような気がする。事業を連携してやっていくことは良いことだが、この事業が生かされて、各市町村名が認識されればいい。	意見	
	日頃から移住定住の取材をして、地域に魅力を感じて移住定住を成功される方もいる。活動を地道にやっていきたい。	意見	
	講演会や地域リーダーの項目はあるが、システム的に地域の安全安心を守る仕組み、防災面の連携を地域で考える項目があってもいいと思う。	意見	被災時においては「災害時における北海道及び市町村相互の応援に関する協定」が締結されております。 平常時における市町村連携については、「沿線総務課長会議」等で情報交換などの連携を図っています。（事業としてではないので、ビジョンに記載されていません。）